2019年4月吉日

ユニシス研究会
北海道支部会員各位

ユニシス研究会
研究活動　運営委員会

2019年度　研究活動メンバー募集のご案内

拝啓　日頃よりユニシス研究会活動にご協力、ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。
ユニシス研究会では、会員の皆様が日常業務の中で抱えている課題やこれからのITを駆使した新たな働き方、AI活用などをテーマに、会員同士や日本ユニシスグループ社員との情報・意見交換の場、また、相互研鑽の場として、各種の研究活動を推進しています。

今年度も、会員企業のリーダー・担当者クラスの方を対象に「グループ研究」形式により活動を進める研究活動を実施いたします。

研究活動の成果は、来年3月に東京にて開催予定の『研究活動発表会』などで発表いただく他、特に優れた成果には、ユニシス研究会で最も栄誉ある『エッカート賞』候補としても推薦されることとなっております。

ビジネスヒント発掘や企業の枠を超えた人材育成、新しい交流の場としてご活用いただきたく、下記要領にてご案内いたします。
皆様のお申し込みをお待ちいたしております。

敬具

1．研究テーマ：

テーマは研究メンバーでお話し合いのうえ決定いただきます。
テーマ案は、同封の「2019年度研究活動　活動テーマ案」をご参照下さい。

2．参加資格：

ユニシス研究会会員企業の方であればどなたでもご参加いただけます。

3. 参加費用：

①本年度研究活動費として1企業あたり、￥20,000 を申し受けます。
＊　参加人数に係わらず、1企業あたり、￥20,000 となります。
＊　参加メンバー確定後、「連絡責任者」へ参加費用をご請求させていただきます。
なお、請求書送付先が連絡責任者と異なる場合は、申し込みの際に連絡欄にご記入願います。

②活動のための移動交通費、宿泊などの経費は参加者のご負担とさせていただきます。

4. 研究活動の運営について：

①グループは原則定員5名以上8名までとして編成します。

②主体はご参加いただく皆様です。
基本的にはグループに参加された方の自主活動です。
日本ユニシスグループもアドバイザーとして皆様の活動を支援いたします。

5. 活動期間と会合回数：

①本年5月より2月末まで（発表会を除く）
グループにより差がありますが、15回～20回程度の会合を見込みます。

②北海道グループ発足式は、5月27日（月） 16:00～17:30 を予定しております。

③来年1月下旬に活動成果を「研究活動報告書」として提出していただきます。
＊ 研究活動運営委員が、活動報告書の構成力・表現力・汎用性・有効性・独創性などを考慮し、査読審査を行います。

④来年3月6日（金）、全国のグループが集まり開催される「研究活動発表会」（東京）にて、研究成果を発表していただきます。

⑤各グループリーダー、サブリーダーを対象にグループの中間報告とこれからの活動指針の一助とコミュニケーションを図る場として
「サマースクール；9月6日（金）～7日（土）1泊（予定）」を開催いたします。
リーダー・サブリーダーに選出された方々につきましては事前にご了承ください。
サマースクールに関わる交通費・宿泊費は、ユニシス研究会にて負担いたします。

＊ サマースクールは、リーダー、サブリーダー方々の不安解消、他グループとの交流を目的として行います。グループ内で活動テーマ、今後の方向性を議論のうえ、活動状況とあわせてご報告いただきます。
（詳細は別途リーダー・サブリーダーの方が確定後、ご案内いたします。）

6. お申し込み方法：

同封の「参加申込書」にご記入のうえ、FAX またはメールにてお申し込みください。

7. お申し込み締切り：

5月22日（水）

8. お問い合わせ・お申し込み先：

ユニシス研究会　北海道支部事務局　温山（あたやま）
〒060-0808　札幌市北区北8条西3丁目32　日本ユニシス（株）北海道支店内
TEL：011-558-1111（平日 9:00～17:30）　FAX：011-737-1161
mailto:unih3-box@unisys.co.jp

9. その他：

研究活動報告書、プレゼン資料等の研究活動成果の著作権は著作者に帰属するものとしますが、著作者はユニシス研究会が情報発信する機関誌や Web サイトにおいて、著作者の研究活動成果の掲載・配布に関する権利（個人名・会社名・所属先の公開を含みます）をユニシス研究会に無償で許諾するものとします。

以上

2019年度研究活動　活動テーマ案

	キーワード	テーマタイトル（案）	活動内容（案）
1	品質管理 （プロジェクト管理）	苦戦ITプロジェクトから学ぶ品質管理について	日経コンピュータ誌の連載記事「動かないコンピュータ」は、システム導入の失敗事例や、システム開発、運用に潜むトラブルの種など、思わぬ落とし穴を明らかにすることで話題となったが、今や、どの企業の情報システム部門においても、一度はITプロジェクトで苦戦、失敗した経験があるのではないかと想像される。そのような事例について各企業から情報を収集し分析を行い、真の原因を簡素なメッセージで表した「教訓集」を作成するなど、今後のリスク回避のためのノウハウを研究する。 この研究により、問題分析手法や失敗学（上位概念化）などの手法の習得も期待できる。
2	DevOps	DevOpsによるソフトウェア開発の効果とリスク	ソフトウェア開発手法の1つであるDevOps。 開発担当者と運用担当者の連携が必要となるが、課題解決に向け実装者としてのSRE（SiteReliabilityEngineering）の存在と役割を研究する。
3	音声認識	音声認識技術を活用したビジネスの創出	AIアシスタント機能を搭載するスマートスピーカーが急速に普及し注目されている。 「音声認識技術」の最新動向や活用事例について調査を行い、業務効率化への活用や新たなビジネスの方向性について研究する。
4	サブスクリプション	サブスクリプション型ビジネスを考える	ソフトウエアや音楽、動画などデジタルサービス業界では今や当たり前となっている「サブスクリプション型ビジネス」であるが、既存のビジネスについてもデジタルトランスフォーメーションの波を受けて大きく変わろうとしており、この“必要に応じて必要な量だけのサービスを提供するビジネスモデル”に代わるための仕組みやその方法を研究する。
5	未来洞察	未来洞察の試行とその効果について	新たな事業戦略や新規事業創出の手法の一つとして「未来洞察」が様々な企業で使われている。本活動では、この手法の学習と試行（ワークショップ）を行い、仮想的な事業分野を定め、機会領域や未来年表を作成することで、中長期的な活動戦略の策定までを行う。 この一連の作業を体験することにより、未来を見据える力を養うとともに「未来洞察」とはどういったものであるかの理解を深めることが期待できる。
6	ブロックチェーン	ブロックチェーンっていったい何？ どんなことに注意しなければならない？ 新たなビジネスモデルの探求	近年のFinTechの潮流の中で、大きな話題となった「ブロックチェーン」であるが、そのユースケースは金融サービスにとどまらず、あらゆる業界においてその価値が見出されている。既にブロックチェーンとは何なのかを理解するフェーズから、仮想通貨以外でのビジネスでのブロックチェーンの実用化を模索するフェーズに移ってきている。 本研究では、ブロックチェーンの基本に立ち戻って理解するところから始め、今後の活用にあたっての留意点や展望、新たなビジネスモデルでの活用方法などの探究を行う。その例として農産物や水産物の産地、ブランドを保証できるようなトレーサビリティ業務への活用などを期待したい。
7	APIエコノミー （経済圏）	API連携が生み出す新しい経済圏とは	API(Application Programming Interface)を提供する人、APIを利用してサービスを提供する人、提供されたサービスを享受する人の3者間で出来上がる仕組みを「APIエコノミー」と言う。 今後のビジネス展開において、社内外リソースの活用やビジネスサイクルの高速化に対応する手段としてAPIの提供や活用は不可欠になってきている。 「APIエコノミー」を創出するために、どのようにAPIを提供し、活用するかを研究する。
8	資産可視化	システム運用における既存資産の可視化	長期に渡って利用される企業内のIT業務システムは、ソースコードの肥大化、ソースコードとドキュメントの乖離、情報の属人化など、さまざまな要因によって情報そのものが劣化し、保守が困難化することが免れない現状がある。 本活動では、既存の情報資産のうち、どのような情報を可視化することで、現状を容易に把握でき、困難となっている保守作業を改善できるかの検討を行う。
9	人工知能	データ活用と人工知能を活用した企業内におけるデジタルトランスフォーメーション	様々なものがデジタル化されつながる時代のなか、すでに多くの分野で人工知能が活用されており、データと人工知能を活用した業務の生産性向上や省人化が進められている。 この先さらに、人工知能はどういったところで活用されていくのか、またAI化が進むことによる社会問題を解決するためのサービス創出などについて、調査・検証を行い、次業務への活用に向けた提言や実証を行う。
10	データの利活用	企業内・外に存在するデータを組み合わせ新ビジネスについて考える	内閣府が提唱するSociety5.0実現に向けて、PDS（Personal Data Store）、情報銀行、データ取引市場という新たなデータ流通の仕組み・データ利活用が活性化している。 本研究では、既存の企業内データ、オープンデータや新たに収集できるデータを組み合わせて活用することで、新ビジネスの創出や社会課題の解決などを検討する。
11	深層学習	深層学習適用におけるワークフロー	画像認識や音声認識等の活用事例で「深層学習」への注目が拡がる中、要素技術やツールに関する情報は増えてきているものの、「深層学習」を適用する際のプロセスについては情報が少なく、担当者のスキルやAIベンチャー等の専門家に依存するところが大きい。そこで「深層学習」の既存業務への活用に向け、必要なプロセスや手順等のワークフローについて取りまとめる。
12	RPA	RPAの導入による業務の効率化	最近、RPAの導入による業務の自動化が目立ってきている。 これにより業務部門のスタッフが業務オペレーションから解放され業務の効率化、改善、イノベーションが進んでいる。 働き方改革の一環としての導入事例もセミナー等で発表されており、RPA導入事例の研究と新たな分野への導入の可能性について研究する。
13	クラウド	クラウドを利用した新たなビジネスモデルの探求	クラウド環境は、もはや企業には欠かすことができないITインフラとなった。一方でパブリッククラウド、プライベートクラウド、マルチクラウドなど「クラウド」と名が付いた選択肢は数多くあり、性質や用途が異なるそれらの中から、自社にとって最も適切なクラウド環境を選定する必要がある。オンプレミスかクラウドかといった観点においては、セキュリティ面での対策がどの程度実現できるかが大きな鍵となる。安全で最適なインフラ環境の選択、有効な利用方法について様々な角度から検証を行う。
14	働き方改革	働き方改革へのITの果たす役割	ワークスタイル変革の流れの中で、2020東京オリンピック開会式を「テレワークデイ」と定め、業務実態に合わせて、在宅勤務／モバイルワーク／サテライトオフィス勤務等のテレワーク勤務を推奨するなど、「働き方改革」は早期実現が必要な重要課題となっている。 現在はスマートフォンなどのモバイルデバイスやウェアラブル端末、AIスピーカーなどが身近になり、それらを利用した働き方の変化が予想される中、活用シーンがどの様に変化し、今後ITが果たしていく役割について探求する。
15	セキュリティ	働き方改革における企業のセキュリティ対策	企業に働き方改革が求められるようになり、様々な機器、ワークスタイルで時間、場所に囚われずに仕事ができる環境が整ってきている。その一方で、企業の機密情報や個人情報などが漏えいする危険性は高くなってきており、このようなワークスタイルの変革の中で企業が実施すべきセキュリティ対策について研究する。

※具体的な、テーマタイトルならびに活動内容につきましては、グループ形成されたメンバーの皆様でご検討いただきます。

ユニシス研究会 北海道支部事務局 行
FAX:011－737－1161　E-mail:unih3-box@unisys.co.jp

ユニシス研究会北海道支部「研究活動」参加申込書

【個人情報の取り扱いについて】

ご入力いただくお客様の個人情報は、日本ユニシス株式会社、並びに当社のグループ企業、及びユニシス研究会が、1)本セミナーに関する連絡・確認、2)当社および当社のグループ企業等からの製品・サービスに関する情報提供、イベント・セミナー等のご案内及びマーケティングの目的で利用させていただきます。
ご入力いただいたお客様の個人情報については、当社の「個人情報保護基本方針」に従い、厳正に取扱います。なお、個人情報の開示、訂正、削除、情報提供の停止等のお申し出、その他ご質問がございましたら、下記のお問合せ先までご連絡いただくか、当社ホームページからお申し出ください。また、当社グループ企業への個人情報の提供と、各社の個人情報保護方針については、下記リンク先よりご覧ください。
－当社グループ企業への個人情報の提供について　http://www.unisys.co.jp/com/privacy/u_group.html#1
－日本ユニシスグループ企業　各社個人情報保護方針　http://www.unisys.co.jp/com/group.html
－ユニシス研究会　個人情報保護方針　http://www.yuni-ken.gr.jp/privacy.html
以上の個人情報に関する取扱いにご同意いただけましたら、次の「同意する」にチェックをお願いします。
【個人情報管理者】ユニシス研究会事務局　事務局長　中村　能也

□　同意する

【個人情報の問合せ窓口】ユニシス研究会　北海道支部事務局
〒060-0808　札幌市北区北8条西3丁目32　日本ユニシス(株)北海道支店内
TEL:　011-558-1111 (平日 9:00～17:30)

【ご参加者】

会 員 名	
所　　属 役 職 名	
ﾌ ﾘ ｶﾞ ﾅ 参加者名	
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ	
電話番号	(　　)
連 絡 欄	

※複数名ご参加の場合は本紙をコピーの上ご利用下さい。